山梨日日新聞

私の見方〈4〉

'23知事選

介護支援 地域性考えて

だんだん会理事長

宮崎 和加子さん

みやざき・わかこさん　認知症高齢者のグループホームや訪問看護ステーション、リハビリ特化デイサービスなどを運営する一般社団法人だんだん会理事長。訪問看護師。元全国訪問看護事業協会事務局長。2016年に八ケ岳南麓へ移住。北杜市高根町。66歳。

■介護現場の現状

2025年には団塊世代が全て後期高齢に入りますが、地域の専門人材は限られ、若者に介護を任せられる時代ではありません。自分らしく生きるために、在宅に近い小集団で暮らし続けることを住民同士で支え、地域で回していく仕組みが必要です。

そうした在宅支援の筆頭が定期巡回サービスですが、山梨で整っているとは言えません。効率が悪いからです。北杜市のような山村の現場で最も悩ましいのが移動にかかる経費です。東京のように路地から3分とはいかず、需要はあっても経営的に不利だから広がっていきません。

■求められる政策

1日数回の訪問で食事や排せつなど生活の基盤を支えれば、地域で暮らしていくことができます。山村が多い地域性に合わせて、今ある制度を国基準に加えて県が支援することで、山梨でも使える制度に変えてほしい。市町村にはできないことです。

コロナ禍でリハビリや半日デイサービスの需要が増えました。皆1人暮らしで外出できず不健康になり、体や脳が衰えることを不安がっています。要介護一歩手前の人の健康づくりを見守る場、1日1食でも温かく栄養のあるご飯を提供する場を、民間と協力してつくれないでしょうか。

■求められる知事像

国の施策に右へならえではなく、山梨はこうすればもっと良くなると、地域の実情に合った施策をユニークな発想でつくることができる人です。やると決めたらしっかりやり、アイデアがなければ、アイデアのある人を集めて聞いてもらいたいです。

前知事や党の方針に追従せず、自分がこうと思うことに取り組んでほしいです。『世界一貧しい大統領』として知られ、豊かさとは何かと問う国連でのスピーチが話題を呼んだ南米ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカ氏のように、高ぶらず、おおらかな器を持っていてほしいです。

■選択の基準

不安定な世界情勢と山梨を切り離して考えることはできません。国の選択次第でそれなりの安定を得ることもできますが、日本政府が対応できているとは思えません。今の日本の国政についてどんな姿勢を持つ人か、それを見て選びたいと考えています。

山梨は山も川も空気もきれいで自然が豊かに残っている世界でも素晴らしい住環境。大消費圏を近くに持ち、若い移住者も多く、地域の暮らしを支える事業を通じて人も物も動きます。自分らしく安心して暮らせる地域だとアピールできれば、魅力を感じる人は多いはずです。

〈聞き手・中嶋寿美子〉